

9

古写真と今を比べよう ● ● ● ● ●

家のタンスに眠る古い写真には、明治から昭和にかけての貴重な景観情報が詰まっています。今では無くなった建物、様子が変わった森や林、見られなくなった生活・風俗など、当時の景観を構成していたセットが全て一枚の写真に写されているのです。これらの写真を「古写真」と呼ぶことにします。

これらの古写真は、個人の撮影による趣味的なものですが、今と違っては貴重な学術資料として評価されるものになっています。特に撮影した年代と場所が特定できる古写真は、現在の景観写真と比べられることから、博物館に収蔵するほど価値が高いのです。しかし、撮影した年代や場所をご存じの方（撮影者やそのご家族）はすでにご高齢で、今情報を集めておかないといつのどここの写真かわからなくなってしまいます。

この「いつのどここの古写真か」を調べることは、当時の様子を知方から色々なお話を聞くチャンスでもあります。私たちが少し見ただけではわからない当時の様子も、その時代を生きた方々から話を聞くとイキイキと甦ってくるのです。このお話はそのまま今の景観を考えることにつながり、お住まいの地域の「見方(みかた)」や「居方(いかた)」の学習になります。

フランスのエコ・ミュゼ（地域の自然や産業遺産、暮らしなどを全て野外博物館にしたもの）では、このような古写真の収集と情報の聞き取りを、小学校の地域学習の授業として実施しています。普段話す機会の少ないご高齢の方との接点もでき、地域のことも視覚的に理解できるこの取り組みは、エコ・ミュゼの主要プログラムの一つになっています。

1. 探す古写真

いくつかある古写真の中で、探しやすいものとして①スナップ写真、②絵はがき、③市町史などの資料掲載写真、の3つがあります。

スナップ写真は、皆さんのお宅のタンスに眠っているものですの



昭和 45 年の下町の景観
路地には生活があふれ出し、遊び場
でもあったことがわかる



現在の下町の景観
軒先の鉢植えは今も残っている

で、最も探しやすい古写真でしょう。まずは屋外の写真を探して、「ここは今どうなっているんだろう？」と思うものを見つけてください。また、なにげない写真でも、お爺さんやお婆さんにおもしろい話が聞けるかもしれません。古写真だけでなく、8mmフィルムなどで撮影した動画なども、当時の景観を調べる貴重な資料です。

絵はがきは、地域の図書館、資料館、博物館、美術館や古本屋さんにあります。お住まいの地域の名所が写っていることが多いですし、撮影日時や場所もわかりやすいため、現在の景観と比べるのが簡単です。また、地域の名所であれば、撮影者ではなく、そのあたりに古くからお住まいの方々に広く当時の様子を聞くことができます。

市町史（神戸市史など）の資料掲載写真は、確実に手に入る反面、場所の特定がしにくい場合があります。この際は、市町村の市史編集担当窓口にお問い合わせ、場所を特定する方法もあります。

2. 情報の記録方法

まず、古写真を見つけたら、後で元に戻せるように、あった所と写真に同じ番号を付けてください。付箋を使うと便利です。（貴重な資料ですが、なにより大切な思い出です）

次に、図に例を示すように、できるだけ地域の場所がわかる地図

を用意し、そこに撮影日時、撮影場所と方向を記入して行きます。コピーした古写真を貼り付けると、よりわかりやすくなりますし、後で当時の様子を聞く時の資料としても活用できます。詳しい地図は、大きな書店か市町村の窓口で入手できます。



古写真の情報の整理例

撮影日時は年→月→日→時刻のわかる所まで、場所は撮影場所と方向を記入。地図は 1/2500 地形図（白図）が最適だが、場所が特定できるものなら何でも可。

次に、景観の中身についての聞き取りです。古写真の番号と対応させたA4一枚程度の聞き取り用紙を持って、古写真に写っている景観をご存じの方の所に行きます。まずは古写真を見て頂き、ただ「古写真に写っている内容を教えて欲しい」旨を伝え、自由にお話いただきます。次に、写真に写っていないが、この古写真の景観を見て思い出すことを聞き取ります。以上の聞き取り情報は、記録のまま保存しておいても結構ですが、後に説明する景観の構造毎に整理したり、現在なくなっているものだけを整理したりすると、よりわかりやすい資料になります。

4. 現在の景観と比べる

聞き取りでわかった古写真の位置情報を元に、現在の景観と比べます。できるだけ同じアングルで写真を撮影し、重ね合わせるくらいに比較できるようにしてください。

古写真と今の写真を比べる際に重要な、景観の構造を説明してきます。景観は「前景」「中景」「遠景」の3つから構成されています。「前景」では最も強調されるもの（人物、建物など）の表情や質感までがわかり、聞き取りした内容が最も強く表れ、その古写真の意味を一番表しています。「中景」は景観の外枠を作りますが、ここが最も古写真と今が違うことが多く、写真を比べることで変化がわかる部分です。特に建物や特徴のある樹木に注目してください。「遠景」は、主に山系であることが多いです。背景として山の形がはっきりしているか建物などで分断されているか等が注目すべき点です。

これらの比較を通じて、古写真に写っている地域の特色がよく理解できるでしょう。最近の「どこに行っても同じ風景」とは違う古写真の景観を調べることによって、今後まもるべきものがわかってきます。



昭和初期の絵はがき（宝塚名所）
「蓬萊橋と武庫川の清流」



現在の蓬萊橋と武庫川の景観

5. 上級編：名所図絵と今を比べる

古写真だけでなく、まだ写真が無かった頃の景観情報と今を比べるのも面白いです。江戸時代のガイドブックである名所図絵（めいしょずえ）は、当時の景観をそのまま描いたものではないものの、特徴がうまくまとまった良い資料です。兵庫県下の各地が掲載されている名所図絵としては、「西国名所図絵」、「摂津名所図絵」、「淡路国名所図絵」、「播磨巡覧図絵」などがあります。上記4種類の資料は人と自然の博物館に収蔵してありますので、ご活用いただければと思います。



摂津名所図絵「湊川」の
六甲山から見おろした景観

現在の六甲山から見おろした景観